

令和5年度第2回 伊賀市ごみ減量・リサイクル等推進委員会 議事概要	
日 時	2024（令和6）年3月27日（水）午後2時00分から午後3時40分頃
場 所	さくらリサイクルセンター 大会議室
出席者	小竹委員長、樋口副委員長、早瀬委員、岩本委員、森西委員、工藤委員、三山委員、中森委員、川口委員、藤森委員、久保委員、森田委員、山下委員 （15名中13名出席） 〈事務局〉 人権生活環境部 上島部長、瀧口理事、南次長、 廃棄物対策課 田中課長、喜多田副参事、吉岡主幹、吉藤主査 さくらリサイクルセンター 葛原所長、山本主幹 浄化センター 比口所長
概 要	<p>1. あいさつ【小竹委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活のごみ減量について（商品包装等が多い。） ・伊賀市のごみ減量、資源化に向けての考え方や現状について説明を受け勉強する。 ・バイオマス配合の指定ごみ袋について、今後の市の方向性を聞く。 ・委員から提案の不法投棄について聞く。 ・各地域のごみ処理の取り組みについて情報交換したい。 <p>○資料確認</p> <p>○あいさつ【人権生活環境部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量・資源化の協議並びに市の環境施策につきまして、ご支援ご協力のお礼。 ・市のごみ減量・資源化の取り組み、家庭ごみ等の資源化の現状や不法投棄対策について市の現状や取り組みについて、現状報告を行う。 <p>2. 伊賀市におけるごみ減量・資源化の取り組みについて 資料1</p> <p>【廃棄物対策課長 資料に基づき説明】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①可燃ごみ発生量の推移について 資料2 ②生ごみ処理容器購入費補助金交付事業について ③ごみ減量・資源化の啓発について ④市内小中学校での主な取り組みについて ⑤資源再利用物回収奨励金交付事業について ⑥自治会での資源（紙・布）回収について（名張市・伊賀南部） <p>〈主な意見等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような方法で集団回収をしているのか教えてほしい。具体的な事業や方法論はこの資料ではわからない。 ⇒【廃棄物対策課】前回の委員会で学校等を対象としている資源再利用物回収奨励金交付事業を自治協も活用できないか意見をいただいた。 資料にある集団回収の桐ヶ丘地区は月に2回自宅前に紙・繊維類を出してもらっており、布はコロナ禍以降回収していない。 収集業者の回収条件は件数と量が合うことが条件であり、地域がまとまっていること、コンパクトな地域のほうが収集されやすい。 ・アルミ缶を回収するために地区市民センターにトン袋を置いている。買い取り額はかなりの額となっているため助かっている。 ・学校の取り組みでなく、地域で取り組んでいるところがあれば3円／キロの補助金の交付があったら励みになるかと思う。

・（説明のあった伊賀南部地区は）地域が先に取り組んでいたのか、市が補助金交付を行うとって始めたのか。

⇒【廃棄物対策課】元々地域が活動を行って自主財源としたいと希望があったと聞いている。

・市全体でどうしたら回収できるか市の部署内で知恵を絞ってほしい。

・減量化を進めている地域に努力が報われるようにしてほしい。

・戸数が多く人口も多いため、なかなかまとまりにくい。戸数が多いため、人材の確保や場所の確保も難しい。戸数が多いからやりやすいというわけでもない。

家の前に置いておくのが難しい。町内だけならいいが、自治協単位では周知が難しい。

・集積所がない地域ではカラスだらけである。工業団地があるため10tトラックの走行が多いことや、家の前には土地がないためごみが置けない。

・（取り組みを行うにあたり）メリット、デメリットを教えてもらい協議をしてほしい。

・以前、アルミ缶だけだったと思うが、ボランティアで全地域の収集を行っていた。ボランティアチームが高齢化で交代要員がいなくなり、自治協の会長が全区域をまわっていた。アルミ缶を出す量も減り、一昨年に収集を要請しているのが現状である。

・学校単位でアルミ缶や資源ごみの収集を年2回実施している。

アルミ缶だけではなくスチール缶も入っているため、集めたものを分別して、業者へ持っていく熱心な人がいなくなりやめている。自治協単位では難しい。

・資源ごみの集団回収もいいが、集団回収でコンテナを置くと無人になるといろいろな品目が置かれていくことが懸念される。

・分別のマナーについて学習が至っていない人もいるのでは。自治協の環境教育として行政から講師をしてもらい分別収集の意識を高めてもらうのは。

・ごみを回収するための第一義的なことは地域の衛生を守ること。資源回収も大事だが、カラスが来るなどは一番あってはならないことで、きれいに回収してもらうことを基本としなければならない。土地を確保してごみを置ける場所を基本的に考えないといけないのでは。分別も大事だが、町の衛生状態を保つことが最優先のことである。市として今まで取り組んでいることがあってもこのことが最優先かもしれない。

・年1回、6つの住民自治協議会が一斉にクリーンデーとして、全住民が参加するような日がある。大小いろいろなごみを全地区が集めて、1ヶ所に集めて処理をするという方法。

また、それぞれの自治協議会では、景観美化共同作業としておそらく全戸出動で、私の地域は年3回行っている。

3. 家庭ごみ等の資源化の現状 資料3

4. 不法投棄対策について 資料4

【さくらリサイクルセンター所長 資料に基づき説明】

〈主な意見等〉

・監視カメラの設置場所は？

⇒【さくらリサイクルセンター】次年度以降予定の三重県との連携事業で市内1か所。

・地域の入口にカメラを設置することで抑止効果があれば地区の入口に設置しようと考えているため、重複していたら駄目なので聞きたかった。

コンビニごみが劇的に減った。警察に通報したこともあるが、草刈を行っていないところに看板を立ててもごみを捨てられる。

・不法投棄をさくらリサイクルセンターに相談し、回収してもらった。警察へもつないでくれた。監視カメラを取り付けてほしいと依頼もおこなっており、導入をお願いしたい。

・監視カメラを市として設置する予定はあるのか。

⇒【さくらリサイクルセンター】市も設置（移動式）する予定をしている。

・場所は公募で選定を行うのか。

⇒【さくらリサイクルセンター】ご相談があればお伺いする。

・自治協単位の補助金（伊賀市住民自治協議会地域包括交付金）を使い監視カメラの設置を考えている。地域の見守りを兼ねている。地域のご事はやれることはやらないといけないと思う。

・自治協の環境保全部で川の清掃を行っている。さくらリサイクルセンターでボランティア袋の交付を受けている。川から自転車やチャイルドシートなどの粗大ごみが出てきた。東屋があるところには花見客のごみが散らかっていたり…。警察にも来てもらったが捕まえられない。ごみの回収はイタチごっこであり、どういふ風な方法か教えてくれたらありがたい。

5. その他 【廃棄物対策課長】

・バイオマス指定ごみ袋は令和6年度に導入予定である。

形状は今のごみ袋と変わらず、素材がバイオマス 25%である。

店頭に並ぶのは秋頃を予定しており、取扱店の在庫が少なくなったら入荷。

青山地区は伊賀南部環境衛生組合と協議しており、伊賀市全域で取り組みたい。

〈主な意見等〉

・バイオマス素材のごみ袋をテストで使わせてもらったが、強度はどうか。

強度的に強くなるのか弱くなるのか変わらないのか。

⇒【廃棄物対策課長】強度については、バイオマスの配合なしと変わりません。

ごみ袋の中に入れるものについては、尖ったものをいれると裂けます。

使用感は今までと変わらない。

・バイオマスが配合され、現状では料金の値上げがないと聞いているが、将来的にはどうか。

⇒【廃棄物対策課長】コストはかかるが、高い材料を使うため値上げをするというのは…。委員の皆さん方に意見をいただきながら相談したい。